

令和7年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	広報広聴委員会			
参加委員	◎金沢広美 ○村越深典 中村知義 武田紗知 飯島裕貴 古市順子 高田 忍 石合祐太 齊藤加代美			

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

あきる野市議会だより「ギカイの時間」が全国的に注目され続けている理由、読者を増やすためにリニューアルをして、以降十数年、質を保ち続けている理由、広報広聴委員会としての関わり方を学ぶことを目的とする。

2 実施概要

実施日時	視察先	東京都あきる野市
令和7年8月19日（火） 13時30分～15時00分	担当部局	広報広聴委員会 議会事務局
視察事業名	議会だよりについて	
報告内容	<p>1 視察先の概要 面積：73.47 km 人口：79,807人 秋川市と五日市町が1995年9月1日に合併し発足した。 面積の6割が森林。 そのうち7割は人工林。純農村地帯であったが、1960年代から、首都圏のベットタウンとして住宅開発が進展。</p> <p>2 視察先の特徴 秋川渓谷など豊かな自然に恵まれ、ハイキングや川遊びなどが楽しめる。都心へのアクセスもよく、リーズナブルな生活環境と充実した子育て・創業支援が特徴。 東京サマーランドのような人気観光スポットも点在し、地域コミュニティとの絆も深い都市。</p> <p>3 視察事項について リニューアル前の議会だよりの表紙について、他の自治体の表紙と比較してもうら市民アンケート（来庁者270人が協力）を実施したところ、4%の方しかあきる野市の表紙を選ばなかった。 また、議会だよりは新聞折り込みの配付のみなので、市民の目に留まらず、読者が少ないという実情もあった。</p>	

そこで、平成23年10月から議会報調査研究グループ（議員3名、職員1名）を中心として、リニューアルに向けて検討を開始。平成25年2月1日第70号をゴールとして計画が進んだ。リニューアルすることが決定し、「手に取ってもらえる表紙づくり」と「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」を重点的に検討する。

検討1

「興味を引く特集と表紙（ターゲットを決める）」
号ごとにターゲットを変え、時間をかけて全ターゲットを獲得
〈特集のテーマ〉

- ・地域で子供を育てる人
- ・多胎児を育てる親
- ・キッチンカーで販売する人
- ・家庭ごみ収集業で働く人
- ・お神輿の担ぎ手
- ・健康づくりを推進している人
- ・移住者
- ・市内に住む外国人 等々

「表紙を特集とリンクさせる」

- ・委員が対象者を人選し、取材の対応を行う。
- ・表紙に掲載の人は1人。
- ・表紙と特集は同じ内容にすることで、市民と議会の距離が近くなる。

→とにかく表紙が大事。

検討2

- ・名前の意義は生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間に欲しい。

→タイトルを「あきる野市議会だより」から「ギカイの時間」に変更する。

- ・読みやすさを基準に。

〈導線〉

- ・タイトルをリード読み、小見出しにすることでストレスなく読める。

〈ホワイトスペース〉

- ・余白を確保しないと読み飛ばされるので、あえてホワイトスペースを作り余白を大事にした。

〈統一感〉

- ・緑を基調カラーに、読みやすさとすっきり感。

	<p>検討 3 「裏表紙」</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内 10 校の小学生が夢を語るコーナーやスケジュールや啓発的な記事の掲載 <p>検討 4 「議案審査・一般質問」</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政用語を市民の方にも伝わりやすい言葉に。 知らせたいこと、知りたいことの差。 読んで欲しい量と読める量の差を見直した。
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	<p>とにかく読みやすい内容にするために、分かりやすい文章に置き換え、議案も写真付きで説明。</p> <p>1 ページに 2 つの議案をピックアップ（情報の整理、必要な情報選別）して掲載。議案掲載については、一問一答方式をとること、写真を入れることで、とても読みやすく、分かりやすくなっています。読んでみたいと思うレイアウトになっていて素晴らしい。</p> <p>上田市も委員会審査は、一問一答方式であるが、いくつかある議案もピックアップ方式で掲載していくことで、議会の内容もさらに深まると感じた。</p> <p>議会のことを全て知ってもらおうとなれば、内容も多くなり、市民との思いに一つの間にか格差が生まれてしまう。読んでもらう視点から、統一感やホワイトスペース（あえて余白を作る）を使用するなどの検討も今一度、必要かと考える。</p> <p>配布している市議会だよりが多くの方に読まれているということ、あきる野市への行政視察（議会だよりについて）が十数年続いていることは、議会だよりの持つ意義をもう一度考えていくことも大事であると思う。</p> 



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

令和7年度 委員会行政視察実施報告書

委員会名	広報広聴委員会
参加委員	◎金沢広美 ○村越深典 中村知義 武田紗知 飯島裕貴 古市順子 高田忍 石合祐太 齊藤加代美

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

現在の上田市議会において開かれた議会を目指し、広報広聴のために広報活動を行う中で、重点目標の広聴に力を入れる必要があると考える。5年後、10年後の上田市を考えるには、若年層の意見を聞くことが大切と考え、先進的に開かれた議会を目指し、若年層と交流している御殿場市議会を参考に課題の解決に資する。

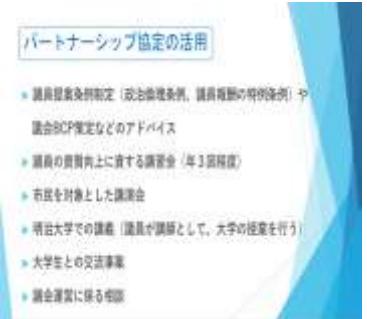
2 実施概要

実施日時	視察先	静岡県御殿場市
令和7年8月20日（水） 10時00分～11時30分	担当部局	議会改革特別委員会 議会事務局
視察事業名	未来議会プロジェクトについて 高校生と議会の交流について	
報告内容	<p>1 視察先の概要 静岡県の東部に位置し、世界遺産に指定されている富士山の東麓にあり、富士山と箱根山系の中間に位置する平均標高500mの高原都市。 人口83,122人で、首都圏からのアクセスも良くベットタウンとなっている。</p> <p>2 視察先の特徴 市の面積は、3分の1が森林、3分の1が自衛隊演習場、3分の1が市街地であり、標高400mから500mの御殿場駅周辺が中心市街地となっている。富士登山口の1つ「御殿場口」、大規模アウトレットモール等が立地。陸上自衛隊の3つの駐屯地と東富士演習場も所在している。キャンプ場、温泉、公園など自然を生かした施設が多くあり、都心からのアクセスも良いため観光の拠点となっている。</p> <p>令和5年の観光交流客数は、1,500万人。そのうちアウトレットへの来客がほとんど。宿泊者数は116万人。富士山の景観が自慢の市。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>① 開かれた議会への取組のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none">・御殿場市議会において開かれた議会への取組のきっかけは、平成28年行われた市議会選挙が「無投票」となったこと。・無投票になった原因として、市民から「市議会議員は何をやっているのか分から	

- 「ない」との声が多く聞かれ、政治に興味を示してもらえなかった。
- ・無投票になったことで、市民から「市議会議員は市民の審判を受けていない」との声もあり、多くの候補者の中から選挙によって市民に選んでもらわなければならぬとなった。
 - ・市議会議員の活動を多くの市民に知っていただくために、「開かれた議会」を目指す。市民に議会活動を理解していただき、関心を持ってもらい、議員のなり手不足の解消に繋げる。

○明治大学とのパートナーシップ協定

- ・平成29年に議員辞職勧告を出すまでの事件が起こり、平成30年に議会改革などに関するパートナーシップ協定を明治大自治体政策経営研究所と結ぶ。
- ・市議会の政策課題について、大学側からアドバイスを受けるなど、議会機能の充実と議員の資質向上を図ることを目的とする。



② 未来議会プロジェクトの実施

- ・未来会議プロジェクトは、これから議会を担っていく人材の育成と若者の意見や考えを聴き、今後の議会運営の参考にしていこうとする事業。

実施している事業

(1) 御殿場市議会政治塾

- ・行政や議会に関心がある方や議員に興味はあるが、立候補することに躊躇している人などを対象に、議会や選挙などの説明や議員との意見交換を通して、議会への参加を促し、議員への立候補の背中を押してあげることを目的とする。

・実施状況

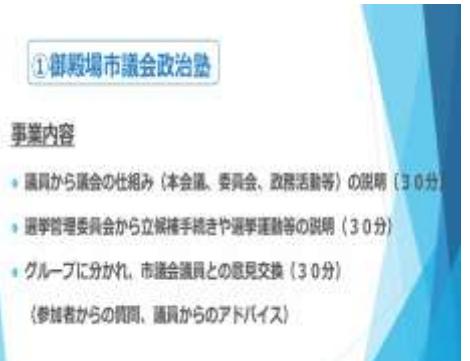
第1回 令和4年1月14日

参加者11名（20代～60代 男8名 女3名）

第2回 令和4年11月22日

参加者 6名（20代～60代 男5名 女1名）

- ・参加の声かけは、議員自ら行った。対抗馬を自ら作る活動だが、対抗馬を作るよりも選挙にならないことを問題とした。結果、2名が立候補した。



(2) 高校生との交流事業

- ・市内にある高等学校3校の生徒を対象に、議会体験や議員との意見交換を通じ、議会の役割や仕組みを理解してもらい、政治・議会、そして市議会議員

- という仕事への関心を深めてもらうことを目的とする。
- ・令和2年から実施。1校ごとに依頼し、あくまでも主体は高校生。日程も決めてきていただき、調整を図り開催に繋げる。
 - ・内容は、定例会の傍聴、グループワークを実施した。
 - ・アンケートの結果、「政治に興味が持てた」「市議会議員の活動が知れた」などの声が多くあった。
 - ・高校生との交流は、主権者教育を目的としているため政策提案としてまでは結びついていない。

(3) 大学生との交流事業

- ・大学生の研究発表と意見交換

パートナーシップ協定による事業の一環として、大学のゼミで地方自治の研究をしている明治大学と大月短期大学の2校の学生がゼミの研究発表を行い、議員と学生が意見交換を行う。議会の仕組みを学生に理解してもらい、若い人が行政に求めるものなどの意見を聞く事で、議員の今後の活動に活かしていく。

③ その他 開かれた議会への取組

(1) 傍聴時託児サービス

- ・小さなお子さんが居る子育て世代の方にも、気軽に議会を傍聴していただき、議会に関心を持っていただく。
- ・今後、子育て中の議員が居た際には、この託児サービスに子供を預けて議会に出席してもらうことも可能。子育て中の方でも議員を目指す後押しに繋がる。

(2) 議会カフェ

- ・広報委員会が主催し、行政や議会の課題や疑問点について、市民からの生の声を聞くため、飲み物やお菓子をつまみながら、カフェにいる雰囲気の中で、気軽に議員と意見交換を行う。

(3) 議会報告会

- ・委員会ごとに、年度当初に年間研究テーマを定め、そのテーマに沿った行政視察を実施し、委員の意見等をまとめて委員会としての報告書を作成する。その内容を議会報告会で発表し、その後グループディスカッションなどを交え、報告会参加者の意見を聞き、取りまとめたうえで、市長や当局担当部署へ提言書として提出している。



- ・市議会議員を選ぶ選挙は大事なことであり、選挙は議員としても活動の原動力となる。そのためには、開かれた議会はもちろんのこと、多くの市民に理解してもらうため広報し、議員のなり手不足を解消する活動をしなければならない。
- ・議員として一番怖いことは「興味がない」と言われること。市議会を知つていただくために、待つだけ、発信するだけでなく、足を使い行動を起こし、広報広聴に努めることが大切である。
- ・広報は議員として向上するには大事なツールであり、周知できることで議員活動の励みとなる。

考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと